

ものづくり

熊谷の工芸 第46回公募 熊谷市美術展

日時：4月4日(水)～4月8日(日) 場所：熊谷市立市民体育館



花輪滋貫さん

日本工芸会正会員 埼玉県美術家協会会員 (工芸) ★お問合わせ 電話048-524-7635(花輪)

花輪師としてのルーツは三代前にさかのぼる。栃木出身の祖父は花輪修行のち東京に住居をかまへ父親の代の昭和二十年に疎開で熊谷に移住した。



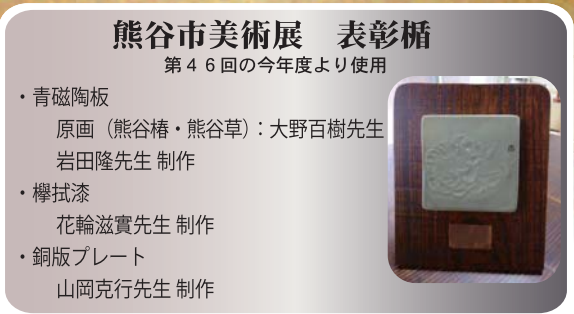
花輪滋貫先生 ミニギャラリーは工務お隣の「藍」で展示中。お問合わせはBGMのクラシックが大好きな花輪さん。お問合わせはBGMのクラシックが大好きな花輪さん。

花輪さんは高校時代に生物に興味を持ち自然観察委員(森林レンジャー)を目指したが挫折し、父親の元で花輪の技術を習得することになった。十年間ひたすら花輪に向って折な折、文化省が主催する「日本工芸会東日本支部展」に出展し第四〇回展(二〇〇〇年)において奨励賞を「花梨拭漆七稜台子」で受賞。



花輪滋貫先生 ミニギャラリーは工務お隣の「藍」で展示中。お問合わせはBGMのクラシックが大好きな花輪さん。

■手打ちそば「藍」048-522-6654



熊谷市美術展 表彰楯 第46回の今年度より使用 青磁陶板 原画(熊谷椿・熊谷草):大野百樹先生 岩田隆先生 制作

自製の型を使った表現を 極めてゆく 陶芸 岩田 隆さん



佐谷田の旧家、岩田家は熊谷の市街地に隣接し、また田圃風景の残る地域に行む。表札が白釉の陶板にお名前が彫り込まれ、外壁に連なる屋敷門に良く合っている。広い中庭の片隅に工務が設えられ、二メートルの本格的ガス窯、小ぶりの窯、等々蔵の一部を利用して陶芸教室も開催されている。



新橋樹社社員 熊谷市美術家協会会員 ★お問合わせ 048-521-5227(岩田)

養蚕と絹織物の産地、豊かな水、大消費地である江戸(東京)に近い熊谷は古くから染物業が盛んだった。その歴史は中世にまで遡る。江戸時代には藍染めで「小紋」を染め、武士の袴などに使われた。明治に入り、化学染料が手に入るようになると、色を使った友禅染や江戸小紋染が増盛んになる。伝統の染色が洗練された形に今に伝わっている。染色から製品にするまですべての工程を一つの工房で行うのも「熊谷染」の特徴と言える。

熊谷にはかつて百軒以上の染物屋が軒を連ねていた。今では数えるほどしか残っていない。その中にある株式会社ソノヤは昭和六十二年埼玉県伝統工芸モデル工場として、平成六年県内十九番目の彩の国工場に指定され、一度に四反の染色が出来るなど、関東に於いては最大規模、充実した設備の染色工場を誇る。

熊谷にはかつて百軒以上の染物屋が軒を連ねていた。今では数えるほどしか残っていない。その中にある株式会社ソノヤは昭和六十二年埼玉県伝統工芸モデル工場として、平成六年県内十九番目の彩の国工場に指定され、一度に四反の染色が出来るなど、関東に於いては最大規模、充実した設備の染色工場を誇る。

食彩工房 和と洋のコース料理専門 仕出し料理 出張料理 御祝いから御法要まで

自作の色見本も二〇〇種を超え、整然と板に固定されて制作時の参考に使われている。緻密な構成を惜しみない工夫が可能な愛らしいまでの繊細さ。火と戦った力強さを帯びている。生活の中で使えたらどんなに幸せな時間を過ごせるだろう。



熊谷市美術展 表彰楯 第46回の今年度より使用 青磁陶板 原画(熊谷椿・熊谷草):大野百樹先生 岩田隆先生 制作

制作される人形は桐材をあら彫りした木芯に桐塑(とうそ)という粉と糊を練り合わせたものをのせてゆき、磨き、和紙を張り、布を木目込る。色胡粉磨き、顔ものづくりに打ち込める人形制作、工夫が練り返される。人形制作は四半世紀に及ぶ。もつくりが好きな人形は、桐材をあら彫りした木芯に桐塑(とうそ)という粉と糊を練り合わせたものをのせてゆき、磨き、和紙を張り、布を木目込る。

熊谷染を語る時忘れてはならないのが横田三郎氏。熊谷染の先駆者であり、また多くの弟子を育て、熊谷のみならず関東一円に輩出した。透きさんは数えて四代目に当たる。横田工務は「宇野千代きもの染色工房」としても高く評価されている。宇野さんが亡くなった後、今年宇野千代きもの父伊三郎さんが腕の良さをかわれ「宇野千代きもの」を染め始めたのは昭和三十三年。それ以来、横田さんと宇野さんとの交流が始まった。若き透きさんは宇野さんを通して本物を見、素晴らしい人々に会い、様々な事を学んだ。茶碗がわからなければ着物もわからない、という宇野さん。学生だった透きさんは、骨董の目利きで

be with y は、あなた(you)のy.そして、八木橋(yagihashi)のy. これまでも これからも

ガラスは魅せられて 各務ひとみさん



平成23年度 伝統工芸諸工芸展 日本工芸会賞 吹屋紅柄文楽物

テラコッタの像は隙のない造形であった。これも同様。人形制作は総合芸術と言われる由縁を実感した。平成十八年に開催された京都の人形寺宝鏡寺の公募展に出展。人形には人の心を捉えて離さない魅力があり、親や周りの人々の愛情を表現している。また、大人になり忘れていても、かつて愛情をうけていたことが呼び覚まされると評された。「あの頃」と題した作品。

ガラスは魅せられて 各務ひとみさん 生きる意味を問い、答えを求めて伝説を勉強していた。二十世紀の四十年代、第二次大戦中、ガラのオプジーエを視た各務ひとみさん。その時「雷が落ちて、これだ」と思った。そして、熊谷ガラス工房、次いで富山造形研究所で勉強を始める。二年経った頃、ある作品を作らなかつたら、何故か、と目も涙が出た。それと、生まれてきて良かったと思えた。彼女が初めて生まれてきて良かったと思えた瞬間だった。ガラスを作るために生きてきたのか、解けなかつた問いの答えが見つかった。湧き上がる喜びを体中で伝えてくれた。

三船 レストランメニュー

真髄の美を求めて わたばきようこさん

吹屋まで研究に向き、崇高な威力に衝撃を受け「歴史の証に魅了されてく強い執念で作品に向かいました。その作品は日本工芸会賞 受賞(写真)、三重県伊賀市柿井作本第五十二回日本伝統工芸展に入選(三越本店四月十八日)と三回発表。

自然環境に優しいソーラーシステム 夏涼しく、冬暖かい「そよ風」

Gift 人と人とのコミュニケーション "贈りもの"をとおして手伝い

Yagihashi 熊谷・八木橋 〒360-8502 熊谷市神町74番地

三船 レストランメニュー

田部井建設株式会社 TEL048-588-1551